

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 2 月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200635		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 江波气象台入口		
所在地	〒730-0834 広島市中区江波二本松2丁目10-22 TEL 0 8 2 - 2 9 5 - 5 5 7 5		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200635-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

お一人おひとりの生活歴を大切にし、ご本人様・ご家族様の要望に沿ったケアを、職員間で統一し実践するようにしている。
食事作りを大切にし、グループホーム内で手作りの食事を提供することで、匂いや音などからも食事を楽しみにして頂く事を大切にしたい。毎食、お手伝いいただけることはお願いし、職員と一緒に作ることで、ご本人の能力も発揮していただいている。
当グループホームは江波山の麓に位置し、春は桜・秋は紅葉と季節を感じながら生活できる。また、中庭があり、ここにも季節を感じて頂ける工夫をしている。そこでの作業を入居者様と一緒にを行うことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成24年7月開設の事業所である。事業所は气象台に隣接し、桜の有名な江波山公園のふもとに位置している。事業所の近隣は古くからの街並みが残る地域であり、地域にとけこむ努力が日頃からなされている。特に食事に力を入れており、専属の調理職員を配置し、栄養バランスや彩り豊かな食事を提供し、多くの利用者は残さず完食するなど、好評を得ている。
事業所の周辺は市電の終点があり、交通の便もよく、春の桜、秋の紅葉など季節を感じることができるほか、建物構造は平屋で、中庭からはたくさんの日差しが入り、気持ちの良い空間である。また、中庭で植物や花を育てるなど、利用者が自分の力を発揮しながら、落ち着いた雰囲気でも過ごしてもらえるような空間で、日々過ごしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>職員全員で作った理念を、毎朝の朝礼で出勤職員全員で唱和し、理念に沿った支援が行えるように心がけている。</p>	<p>理念は職員全員で作成しており、意識が保てるよう、申し送り等で毎日、唱和をしている。外出時や通勤途中にも近所の人に挨拶を行い、顔なじみとなることで、地域にとけこんだ運営の意識向上につなげるなど日々、地域密着型サービスとして、意識の向上に努めている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>町内会に入会し、地域の行事に参加させていただくと共に、地域の方々にもボランティアで行事に参加いただくなどの交流を行っている。</p>	<p>町内会に加入し、地域行事にも参加しているほか、近隣のボランティアの受け入れ、認知症カフェへの出席のほか、日頃から近隣への挨拶を欠かさないことにより、事業所自体が地域の中にとけこんだ運営がなされている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>地域の方々からの質問や相談に、随時に応じる様にしている。昨年からはじめた、認知症カフェにも参加させていただいている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、写真や広報誌を用いて、日々の様子行事などの報告を行っている。その中で、出席者様からご意見や感想をお聞きし、次の支援につながるよう、担当者として検討を行っている。</p>	<p>会議には、町内会、連合町内会をはじめ、地域包括支援センター、民生委員のほか、家族の参加もあり、様々な意見や改善の提案がなされている。意見や事業所内の様子は、事業所の「ほのぼの通信」にも反映し、サービス向上に活かすなどの工夫がなされている。</p>	
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>なかなか、市町との密な関係はとれていない。</p>	<p>市担当者とは連絡を取ることは少ないが、地域包括支援センターとの連携に努めており、月1回の同センター主催の情報交換会に参加し、事業所内の様子を伝え、情報交換や協力関係構築に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>基本的には、身体拘束は行っていない。自由に行動できるように支援しており、玄関も施錠してはいるが、場合によっては開放し、散歩なども一緒にできるよう努めている。また、拘束等の疑いがあるときは、ユニット内で話し合いを行い、拘束にならないケアを実施するようにしている。</p>	<p>身体拘束予防、虐待防止に関する外部の研修会に職員が参加し、事業所内で伝達研修も行っている。言葉での拘束についても、十分注意しているほか、拘束が発生しないよう、付き添いや見守り体制の整備など、事業所全体で、拘束予防のための取り組みがなされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内で職員を対象に研修を行っている。必要に応じ、虐待の芽チェックリストを使い、日々の業務内で言動に問題はないか、確認するようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会の伝達報告会にて、情報を共有している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時・契約解除時は、管理者や計画作成担当者が立会いの下、十分な説明を行っている。説明後も、ご家族の不安や疑問を尋ね、理解・納得をして頂ける様に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やご家族の面会時に頂くご意見やご要望は、出来るだけ早急に日々のサービスの反映させるように心がけている。</p>	<p>家族の面会時に要望を聞いているほか、運営推進会議に参加した家族からも意見や要望を聞くようにしている。その結果、食事に果物を増やすことや、掃除を丁寧にし、衛生面を向上させる取り組みにつながっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月行われるスタッフ会議に、本社長・統轄施設長が出席し、ここで出された意見・提案を、今後の運営に役立たせるように努めている。</p>	<p>日頃から、利用者の対応を検討する会議や、朝礼の時間において対応困難な利用者への対処方法を検討したり、洗濯物の色落ち防止のための工夫など、職員の意見を聞き、運営に反映させる取り組みがなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、賞与等に日頃の努力、実績を反映させ、職員の向上心を上昇させるべく、制度を整備している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>本社にて研修会を設け、必要と思える研修には、個別に対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつ研修会 ・ケアマネ勉強会 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センターを中心として、地域のGH事業者交流会を開催し、参加している。情報交換を行うことで、サービスの質の向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面談では、ご本人の思いをお聴きするようにしている。入居後は、特に関わりを密にもち、思いを傾聴し、安心できる環境を整えている。</p> <p>入居後はユニット職員全員で、信頼関係を構築する努力を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に、ご本人やご家族の困りごとや身体機能・認知症状をお聞きし、把握したうえで必要な支援を提供し、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>事業所内で出来る支援以外のサービスを必要とされている場合には、対応したいと思っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご利用者様と一緒に出来る作業は、声掛けを行い、一緒に作業をするようにしている。(掃除、洗濯物畳み、下膳や片づけなど)</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会等に来られた折に現状を報告し、今のご本人の思いをご家族にお伝えして、ご家族と事業所の職員が一緒になって支援するように心がけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの場所に出掛けたり、お友達に面会にお越しいただいたりして、関係の維持に努めている。</p>	<p>古くからの知人や、利用者の知人である近隣ボランティアから、利用者の昔の様子を聞き、利用者とのコミュニケーションに反映させたり、自宅近くにドライブに出かけたり、菩提寺に出向くなど、利用者が従来から大切にしてきた関係が途切れないような、工夫がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ良い関係が保てる様に、気を付けている。お互いが労りあったり・助け合ったりされながら、掃除・洗濯物畳みなどをされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了されても、必要に応じて、相談や援助に応じられるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表などから、一人ひとりの意向の確認を行ったり、普段の会話の中から真意を把握するようにしてる。また、意思疎通が困難な方には、ご家族から頂いた情報を基に、職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、ご本人本位の支援が出来る様にしている。	利用者本人の意向や、生活歴を重視したセンター方式のアセスメント様式を採用している。また、経過記録から利用者への対応方法を見直したり、日頃から表情を見ながら、意向をつかんで話し方を工夫するなど、利用者本位に検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人やご家族の要望や思いを傾聴し、馴染の環境を整えている。また、入居前に使っていたサービス提供者の方から情報をいただく事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人の現状を十分に把握した中で、プランを計画・実施し、お一人おひとりに合った生活を送っていただいている。また、状況の変化等記録に残して、職員全員で把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>必要時には、施設長・看護師・介護職員を交えてカンファレンスを行っている。立案時には、ご本人やご家族の意向などをお聞きして、現状に即したプランを作成している。</p>	<p>介護計画に沿った介護経過記録を、毎日記入することで、職員も介護計画を常に意識するようになり、見直し、修正のきっかけにもなっている。利用者の現状に即したプランになるよう、日々把握がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプラン実施記録用紙を作成して、日々の様子や気付きなどを記入するとともに、プラン立案に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>職員の付き添いにより、お寺や自宅までの外出支援を行ったり、マッサージの方に来ていただいたりして、個人のニーズや思いに沿った対応を心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加させて頂いたり、かわりのある方々との面会等もお願いして、穏やかに生活を楽しんでいただけるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族やご本人が希望される医療機関か、事業所の協力医かを相談の上決めて、受診や往診をお願いしている。看護師による医療との連携も行われており、適切な治療が受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医による定期的な訪問診療のほか、急変時においても、電話で協力医に相談している。看護師を通じた医療連携がなされているほか、利用前のかかりつけ医を家族が希望する場合、家族同行の通院を継続することもでき、適切な治療が受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師が勤務の時には、夜勤帯での気づきは申し送りで報告し、日勤帯での気づきはその都度報告している。看護師は個々のかかりつけ医と相談の上、適切な看護を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご利用者が入院された場合は、事業所での生活・医療等の情報提供を行っている。また、入院中は度々面会に行かせていただく中で、ご本人の容態をお聞きしながら、早期退院が出来るように、関係者と連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時には重度化についての説明を行い、必要時にはご利用者の容態を考慮した上で、ご家族・主治医・職員で話し合いを重ね、今後の方針を決めていくことにしている。</p>	<p>利用開始時に、重度化した場合に関する説明がなされているほか、実際に重度化した場合、医師や家族を交えて話し合いが行われ、介護中心の看取りとなる事業所の方針を家族によく理解してもらっている。実際に看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>スタッフ会議の中で、急変時・事故後の対応の仕方や訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>本社指導の下、夜勤勤務者には防火管理講習の受講を義務付け、意識の向上を図ると共に、毎月1回は日・夜勤帯でそれぞれ消防避難訓練を行っている。</p>	<p>避難誘導経路には、避難した人の名前が把握できるよう、名簿が貼り付けられている。また、居室の扉には救出した後に、剥がせる名前ステッカーが取り付けられている。避難訓練も年2回行われ、避難先の確認、夜間想定訓練など、日頃から防災の意識を高める取り組みがなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人の自尊心を大切にさせていただきながら対応している。排泄時は出入り口を必ず閉める、排泄の声掛けは大きな声で言わない、入浴介助は出来るだけ同性介助を行うなど、プライバシーの保護には十分な注意を払いながら、対応させていただいている。	一人ひとりの人格の尊重のため、友達言葉などに気を付けるとともに、敬語で話かけるようにしている。排泄時の扉を閉めること、プライバシーの配慮など、日頃から朝礼においても意識付けが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望をお聞きできるように、周りに影響されない場所に移動するなどして、出来るだけ自己決定できるような声掛けなどを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日のスケジュールを決めず、お一人お一人の体調や希望に沿った生活の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者が希望されるものは、ご家族と相談し揃えている。また、ご家族の要望をお聞きし、入居前からの身だしなみを続けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューにご利用者様の希望を取り入れつつ、季節の食材を使用し、調理・盛り付け・配膳・片づけを一緒に行っている。誕生日などは、その方のお好きなメニューを用意している。	専任の調理担当者を配置しており、色どりもよく、栄養バランスに優れた食事が作られている。また、近所のスーパーで買い物をすることで、新鮮な食材を調達している。また、誕生日など特別なメニューを組んでいるほか、準備や片付けを利用者と共に行うなど、食事を楽しむ工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食の食事摂取量と水分摂取量を記録し、十分な量が確保できているかどうかを確認している。また、一人一人の咀嚼・嚥下機能に合わせた食事形態や食事時間などに対応できるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、週1回は訪問歯科の訪問診療を受けられ、口腔内のチェックを行っていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿チェック表を使用し、排尿パターンを知り、日中のトイレ誘導を行うことで、パットの使用量を減らすように努力している。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、工夫を重ね、利用者の排泄の自立に向けた努力をしている。その結果、日中のトイレ誘導を増やし、パットが濡れて不快な思いをせずに、パットの使用量を減らすことができている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘症の方には水分摂取量に注意すると共に、適度な運動や看護師による腹部のマッサージなどを行って、排便をうながしている。ご利用者様によっては、ファイバー飲料などを提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご利用者のご希望に沿った曜日や時間での入浴を行い、ゆったりとした時間の中での入浴を実施している。入浴中は、手の届かないところを介助させていただいている。入浴後は、今日はゆっくり休めます、気持ちよかったという声を聴く事が出来ている。入浴中の時間は決めていない。</p>	<p>浴室は介護がしやすいよう、広めに設計されており、利用者が入りやすいよう手すりも多めに設置するなど、工夫がなされている。週2～3回入浴することができ、希望に応じて長めに湯船につかることもできるなど、配慮もなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまでのご本人の生活習慣を継続した休息時間を取り入れ、就寝時間も、ご本人が眠たくなられた時にお休みいただく様にしている。また、起床時間も決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂くお薬情報を、各職員がいつでも確認できるようにしている。また、目的や副作用についても、看護師より随時伝達があり、理解に努め、内服確認を確実にし、状態の変化等についても注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割ややりがいを持って頂ける様な関わりを心がけている。ご本人の嗜好品についても、希望に沿える様努めている。気候のよいときなどは、近所への散歩・ドライブなどで、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ、ご本人の希望に沿った外出が行えるようにしている。行きたい場所を日頃の会話の中から把握しており、家族や職員の介助の下で、出掛けられることがある。近所への散歩も時々行っている。	日頃から近隣に外出しているほか、季節の花を見るための外出や、観光施設やショッピングモールに出かけたりしている。また、回転寿司や喫茶店など、職員の見守りのもと、楽しんで利用者が外出できるような支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎月一度はパン屋さんが来て、個人で購入されたパンの代金を支払ってもらったり、スーパーへ買い物に出かけられた時には、支払いなど職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の使用は自由にできる様になっている。また、希望があれば、手紙のやりとりもできる様に支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>常に清潔をモットーにしている。不快な刺激を避けることができる様に、光・臭いなどに気を付けている。中庭には季節の草花を植え、皆様に観賞していただいている。季節に応じた設えも一緒に作成して、展示している。</p>	<p>事業所は平屋建てで、回廊式となっており、中庭もあるため、全体的に明るく風通しも良く、場所によっては、ひなたぼっこができるなど、非常に居心地の良い環境となっている。また、廊下には利用者の作品が掲示されているほか、回廊式の事業所を回ることで、足腰の運動にもなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個室で、一人になれる空間とリビングにソファや椅子を設け、他の入居者様との交流が出来る空間を設けている。また、団欒ができる様に、個々の席の配置にも考慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は自由に使用していただいている。入居前に使用しておられた家具などを持ってきていただき、小物などの飾りつけも、依然と同じようにすることで、馴染の空間を作り出している。</p>	<p>全ての居室は外に面しているため、窓から明るい陽射しが入り、換気や清掃にも気を配られている。また、居室には自由にもものを持ち込むことができ、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>カレンダーや時計などを置き、日付の確認・時間の確認を各自で行ってもらっている。トイレなどの場所の確認も、わかりやすく表示している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑江波気象台入口

作成日 平成29年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのかかわりの中で、子供たちとのかかわりができていない	子供たちとのふれあう時間を作る	町探検の施設に組み入れていただく花を育てるための協力をお願いする(水やり等)	6ヶ月
2	5	市町との連携が十分に取れていない	積極的な市町とのかかわりを作る	運営推進会議の報告を直接持参する	4ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。